

# 授業交流会開催される

エネルギー環境教育のひろば

北海道エネルギー環境教育研究委員会  
組織成り樹身会  
2007.12.22発行  
第9号



**30名を超す参会者。授業者も緊張の連続!**

平然と失敗を笑い飛ばす大らかさは

本間先生の人柄か

11月16日(金)に、札幌市立平岸中学校において、今年度2回目の授業交流会が40名を近くの参加者のもと行われた。

今回は平岸中学校の本間 正和先生が「エネルギーの変換と利用」エネルギーの有効利用」という内容で、技術・家庭科(技術分野)の授業を行った。昨年の全道大会に続いての授業ということ、新たな教材開発を行い、回生ブレッキンシステムの有効性をエネルギーの有効利用という視点で考える内容で行った。授業は手回し発電機で台車を動かし、できるだけゴールに早く入るといったチャレンジングな内容で行った。さらに蓄電池に蓄えることで有効に利用できることを学んできた。さらに授業後半のまとめでは、この回生ブレッキンシステムを他のどんなところで使えるかという問いかけに、地下鉄やジェットコースター、飛行機の着陸時、エレ



ベーターなど様々なアイデアが出て、実際にこのシステムを利用してしているものなど、まさにエネルギーを有効に利用できる場面の想定が行われる授業となった。

授業後の交流会では小・中・高・大学の先生方と一般参加の市民の方々との意見交流が行われ、本間先生の人柄が出たという授業であった。新教材は高校の授業でも利用できる素晴らしいものであるという高い評価が得られた。今後技術革新がエネルギー環境を支える一助になると考える授業であった。

## エネルギー教育賞受賞



札幌市立新川西中学校 小路美和先生

電気新聞第2回「エネルギー教育賞」《優秀賞》を受賞。

小路先生は、昨年の第1回北海道エネルギー環境教育研究大会で研究授業を行い、今年8月に高知県で開催された日本エネルギー教育学会第2回全国大会で実践発表した「活かしている地球」の授業取り組みについて論文にまとめエネルギー教育賞に応募していました。12月7日(金)、新川西中学校において電気新聞から表彰状と副賞が渡されました。

# 道内エネルギー環境教育 関連施設視察研修会

10月20日(土)に参加者20名にて恵庭市のアレフ北海道工場と「えこりん村」並びに日本製鋼所室蘭製作所を視察した。

アレフ北海道工場は主要熱源に木質ペレットボイラー、補助熱源には工場から出る生ゴミからバイオガスを生産し利用している。冷暖房にも地下に埋めたヒートポンプを利用するなど徹底した省エネ化を図っている。また、使用済

みの食用油を回収し、配送用のトラックの燃料にしている。

日本製鋼所室蘭製作所は、世界中の原子力関連構造物を生産し輸出する企業で、北海道にこんな最先端の技術をもった工場があったのかと驚かされた。必見！



(日本製鋼所室蘭製作所にて)

に新たに釧路支部が発足することになった。その間組織がこれほどこまで拡大することが予想されたため、現在の組織ではうまく機能されない

平成12年2月に本研究委員会が発足し6年が過ぎようとしている。組織も順調に会員数を増やし、道南支部、旭川支部の発足とともに

## 組織改革進行中

ころが出てきた。そのため、先の役員会で組織の見直しを検討された。また、検討中の所もあるが、今後変更される部分があるが、そ

の途中経過を掲載する。現行の総会については、今まで通りであるが、役員会の構成について現在の42名(委員長、副委員長、顧問、委員)から20名以内の人数構成(委員長、幹事長、幹事、理事)に整理する。また、顧問は定例役員会の構成員としない。役員会の役割と運営は現行通り最高決議機関とする。正副委員長会を「幹事会」に名称を変更する。研究方針、事業計画の原案は幹事会で作成する。その他新たな組織として「運営委員会」を設置する。その構成は3部会代表(部長1名、各部会部員より各3名ずつ)とする。「幹事長」を新設し副委員長を「幹事」とする。また「理事」を新設し各

## 勉強会

12月1日(土)本委員会の学習会がガーデンパレスホテルで2人の講師を招いて行われた。

一部は「省エネ・高効率の住宅づくり」と住まい方についてというテーマで、北海道建築技術協会専務理事の長谷川寿夫氏が講演を行った。

住まいの造り方と省エネルギーの関わり

12月1日(土)本委員会の学習会がガーデンパレスホテルで2人の講師を招いて行われた。一部は「省エネ・高効率の住宅づくり」と住まい方についてというテーマで、北海道建築技術協会専務理事の長谷川寿夫氏が講演を行った。

我々の省エネでは継続的な取り組みは難しく、そのため日常使っている機器の使い方や機器の買い替えに際して、なるべく効率の高い機器を選定するなどの行動が現実的であると、講師の家での実践結果をもとに話が進んだ。実際に白熱電球を白熱電球型の蛍光灯へ変えた場合、初期費用がかかるが3ヶ月で元がとれ、さらにその後の電気代も大幅に軽減されたということ、会場の参加者もうなずきながら聞き入っていた。



中野氏の講演の様子

## 平成19年度 「エネルギー環境教育 シンポジウム」

目的意識を持って、エネルギー環境教育に学校全体で取り組もう。

シンポジウムが上記の日程内容で行われます。どなたでも参加いただけますのでお誘いあわせの上ご参加ください。

日時：平成20年2月23日(土) 13時00分～16時00分  
場所：ホテルライフォート札幌プログラム  
1. 平成19年度活動報告と研究発表

- (1) 活動全般について
- (2) 研究全般について
- 企画部会より
- 調査部会より
- 道南支部と旭川支部からの研究報告
- (3) 来年度の委員会活動及び中期展望について

2. 講演